

日時 2026年（令和8年）1月30日（金）

13時30分～

場所 福山市役所 東棟3階302会議室

第2回 持続可能な地域コミュニティ形成に向けた取組検証会議

次 第

- 1 地域へのヒアリング等について
 - ・ 第1回会議の振り返り
 - ・ ヒアリング結果と傾向
 - ・ ヒアリングを踏まえた成果と問題点
- 2 ヒアリングで把握した地域の事例紹介
- 3 今後のまとめについて
- 4 その他

2025年度（令和7年度）

**第2回 持続可能な地域コミュニティ形成に
向けた取組検証会議**

2026年(令和8年)1月30日（金）13：30～15：00

福山市役所 東棟3階 302会議室

1 第1回会議の振り返り

【第1回取組検証会議の各委員からの主な意見】

○取組に関するもの

- 若者が新たな組織を作り、既存の地域団体に属さなくても自由に活動できる環境も重要
- 取組の成功事例を広め、他の地域にも良い影響を与えてほしい
- 各地域の実状に応じた支援ニーズを把握すべき
- 市内中心部と周辺部では温度差がある。地域特有の課題解決や地域の実状に合った方策があっても良い

○ヒアリング項目に関するもの

- 活動を今後維持できると考えているか
- 住民が地域活動に参加しない主な理由は何か
- 各世代のつながりの希薄化を防ぐための交流の形やイベントはあるか
- 活動における工夫はあるか

2 地域へのヒアリングについて

(1) 概要

- 持続可能な地域コミュニティ形成に対する全体評価と各種取組の個別評価を行うために、抽出した学区（町・地区）まちづくり推進委員会にヒアリングを行う。

(2) 期間

- 2026年（令和8年）1月7日（水）～16日（金）

(3) 対象者

- まちづくり推進委員会委員長などの役員（※交流館職員・地域振興課職員同席）

(4) 地域の抽出方法

- 5ブロック（中部、南部、松永、北部、東部）×4学区
+ 1ブロック（神辺）×2学区 = **計22学区**

※4学区の内訳

①まちづくりミーティング実施学区 2学区

②まちづくりミーティング未実施学区 2学区

※神辺は、まちづくりミーティング実施学区がないため、2学区のみ

(参考) まちづくりミーティングとは・・・

幅広い世代の住民が参加し、自らの学区（町・地区）における地域課題とその解決策について話し合う場。

(5) ヒアリング項目の全体像

【提案書（2019年）の方向性】

（ヒアリング項目）

1. 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討

2. 複雑化した地域自治組織のスリム化、各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討

3. 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し（地域の負担軽減）

4. 行政による地域支援体制の再構築・強化

- 組織・担い手の現状
- 役員の負担感
- 組織運営
- 長期的な地域・組織体制
- まちづくりミーティング

- 地域のデジタル化
- 依頼事項の見直し

- 地域まちづくり補助金
- まちづくりサポートセンター
- 行政の支援体制

3 ヒアリング結果と傾向

(1) 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討

まちづくりミーティング未実施地域

○組織・担い手の現状

- 担い手がいると答えた地域が 25%
- 不確定だが候補者はいると答えた地域が 33%
- 次世代の担い手の 79%が60代後半～70代
- 地域の 42%が、企業や大学など多様な主体と連携した取組をしている

まちづくりミーティング実施地域

○組織・担い手の現状

- 担い手がいると答えた地域が 30%
- 不確定だが候補者はいると答えた地域が 50%
- 次世代の担い手の 82%が60代後半～70代
- 地域の 60%が、企業や大学など多様な主体と連携した取組をしている

傾向

- ① まちづくりミーティング実施地域は、「担い手がいる」、「不確定だが候補者はいる」の割合が8割で、未実施地域と比べ約2割高くなっている
- ② どちらも次世代の担い手の年齢は、60代後半～70代が約8割であり、50代以下の担い手や候補者が少ない

(2) 複雑化した地域自治組織のスリム化、各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討

まちづくりミーティング未実施地域

○役員の負担感

- 75%の地域が役員の業務が多いと感じている
- 会議の出席が負担との声が多い

○組織運営

- 2019年以降、地域の50%が組織や事業の見直しを行っている
- 組織や事業を見直した地域の40%は交流館職員からの提案
- 17%の地域で、やりたい人が集まった任意の団体がある
- 地域活動に参加しない人の主な理由は、「仕事が忙しい」「役員をやりたくない」との声が多い

○長期的な地域・組織体制

- 67%が、5～10年後の地域や組織の存続に不安を感じている

まちづくりミーティング実施地域

○役員の負担感

- 80%の地域が役員の業務が多いと感じている
- 会議の出席が負担との声が多い

○組織運営

- 2019年以降、地域の80%が組織や事業の見直しを行っている
- 組織や事業を見直した地域の90%はまちづくりミーティングがきっかけ
- 30%の地域で、やりたい人が集まった任意の団体がある
- 地域活動に参加しない人の主な理由は、「仕事が忙しい」「役員をやりたくない」との声が多い

○長期的な地域・組織体制

- 70%が、5～10年後の地域や組織の存続に不安を感じている

傾向

- ① どちらも約8割が役員の業務が多いと感じており、特に会議の出席が負担との声が多い
- ② まちづくりミーティング実施地域は、「組織や事業の見直しを行った」が8割で、未実施地域より、3割高い
- ③ まちづくりミーティング実施地域は、「やりたい人が集まった任意の団体がある」が3割で、未実施地域より約1割高い
- ④ どちらも5～10年後の地域や組織の存続に不安を感じている

(3) 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し（地域の負担軽減）

現状

○地域のデジタル化

- デジタル化の必要性を感じている地域は **73%**
- どの地域もグループLINEやLINEオープンチャットなどを役員間や団体の連絡調整に利用しており、会議の案内や出欠の確認が楽になったという声が多い
- HPや公式LINEなどは、管理する人が属人化してしまい、継続が難しいため導入していないとの声が多い
- 行政に求める支援で多かったのは、専門知識がある人の派遣

○依頼事項の見直し

- 行政からの依頼（委員の推薦・防犯灯の管理など）は、**32%**の地域が負担が減ったと感じている
- 行政からの回覧物について、**77%**の地域が減ったと感じている

傾向

- ① デジタル化の必要性を感じている地域は約7割で、どの地域もLINEを活用した役員・団体間の連絡調整を行っている。
- ② デジタル技術の活用にあたり、管理する人の属人化や継続性が課題と感じており、専門家の支援が必要との声が多い
- ③ 行政からの回覧物は減ったと感じる地域が約8割と多いが、依頼が減ったと感じている地域は約3割と少ない

(4) 行政による地域支援体制の再構築・強化

現状

○地域まちづくり補助金

- 補助金を柔軟に活用したいと回答した地域は 68%
- どの地域も、文化祭などの交流事業、環境衛生、防災・防犯など幅広く活用している

○まちづくりサポートセンター

- まちづくりサポートセンターの認知度は 45%
- まちづくりサポートセンターを活用したことがある地域は 18%
- まちサポに求める機能で最も多かったのは出張相談

○その他

- 行政に求める支援で最も多かったものは、行政職員による地域活動への参加

傾向

- ① 補助金は、約7割の地域が柔軟に活用したいと回答している
- ② まちづくりサポートセンターの認知度は約5割と低く、活用したことがある地域は約2割とさらに少ない
- ③ まちづくりサポートセンターに求める機能は、出張相談が最も多い
- ④ 行政職員の地域活動への参加が少ないとの声が多い

4 ヒアリングを踏まえた成果と問題点

成果

1. 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討

○まちづくりミーティングを実施した地域の方が、未実施地域より「担い手がいる」、「不確定だが候補者はいる」の割合が高いことから、まちづくりミーティング（話し合いの場）が担い手確保の一助になっていると推察される

2. 複雑化した地域自治組織のスリム化、各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討

○まちづくりミーティング実施学区の方が、組織や事業の見直しを行っている地域の割合が高い。まちづくりミーティングや地域づくり塾、交流館職員研修などが、組織運営の見直しのきっかけになっていると推察される

3. 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し（地域の負担軽減）

○どの地域もLINEを活用した役員間や団体の連絡調整を行っている。LINE研修会後にデジタルツールを導入した地域もあることから、LINE研修会が地域活動のデジタル化の一助になっていると推察される

○行政からの回覧物は減ったと感じている地域が多い。見直しについて、一定の効果があったと推察される

4. 行政による地域支援体制の再構築・強化

○地域まちづくり補助金は、どの地域でも幅広い事業に活用されており、地域交流事業をはじめ、地域活動の推進に寄与しているものと推察される

問題点

1. 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討

○次世代の「担い手」、「候補者」は60代後半～70代が中心で、担い手の高齢化が進んでいる

2. 複雑化した地域自治組織のスリム化、各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討

○会議の出席など、役員の業務が多いと感じている地域が多い

○将来的な組織の運営に不安を感じている地域が多い

3. 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し（地域の負担軽減）

○デジタル技術の活用にあたり、管理する人の属人化や継続性が課題との声が多い

○行政からの依頼が減ったと感じている地域が少ない

4. 行政による地域支援体制の再構築・強化

○補助金は、多くの地域が柔軟に活用したいと回答している

○まちづくりサポートセンターの認知度が低く、活用している地域はさらに少ない

○行政職員の地域活動への参加が少ないとの声が多い

5 ヒアリングで把握した地域の事例紹介

若い世代の団体発足

- まちづくりミーティングをきっかけに、自分たちの地域を盛り上げる企画の提案や実行する任意団体が立ち上がり活動している。

多世代交流イベント

- 体育会が中心となり、スポーツイベントを多数開催。楽しいことをきっかけに、若者が地域活動に参加するきっかけ作りとして行っている。若者の参加が多く、多世代がつながる場となっている。

協力員制度

- 部会の部長が交代する際に、部長経験者を協力員として残ってもらうことで、新しい部長の不安や負担を減らす。（役を引き受けてもらいやすくする）

行事への動員の廃止

- 防災訓練への各町内会の動員を廃止。ゲーム形式の消火器訓練やAED訓練などにし、誰もが楽しめるお祭りとして実施したことで、若い世代や子どもの参加が増えた。

学校と連携した地域行事の案内

- 小学生やその保護者に地域行事に参加してもらうために、行事の案内を回覧板に加えて学校から児童に直接配ってもらうことで、子どもと保護者の参加が増えた。

6 今後のまとめについて

○第3回 持続可能な地域コミュニティ形成に向けた取組検証会議で次の事項をまとめる

「個別評価」・・・個別事業ごとの成果、課題を整理

「全体評価」・・・提案書（2019年）の方向性に対する成果と課題を整理

「今後の方向性」・・・個別評価、全体評価を踏まえた、今後の方向性・指標を整理

個別評価

全体評価

今後の方向性

○各種取組の個別評価

（個別事業ごとの成果・課題を整理）

○持続可能な地域コミュニティ形成に対する全体評価

（提案書（2019年）の方向性に対する成果と課題を整理）

○今後の方向性のまとめ

（個別評価、全体評価を踏まえた、今後の方向性・指標を整理）

持続可能な地域コミュニティ形成に向けた取組検証会議に係る

ヒアリング項目一覧

【全体評価に関する項目】

1. 組織・担い手の現状

- (1) 地域活動や組織運営の中で、次世代の担い手がいますか？
- a. 次世代の担い手がおり、世代交代が可能である。
 - b. 世代交代については不確定であるが、次世代の担い手の候補者はいる。
 - c. 次世代の担い手がない。
- a、b を選んだ場合、担い手の年齢層は何歳代ですか？

- (2) 担い手育成や役員交代の仕組みはありますか？ 「 ある / ない 」

2. 役員の負担感

- (3) 役員の業務は多いと感じますか？ 「 多いと感じる / 感じない 」
- (4) 特に負担が大きいと感じる業務は何ですか？（複数可）
- a. 会議への出席
 - b. 資料作成
 - c. 行事運営
 - d. 会計処理
 - e. その他

3. 組織運営

- (5) この数年（2019年以降）で、組織運営に次のような変化がありましたか？
- a. 組織の見直し
 - b. 事業の見直し
 - c. 会議の回数・方法の変更
 - d. 役割分担の再整理
 - e. その他
 - f. なし

- (6) 各種団体間で情報共有や連携をしていますか？ 「 はい / いいえ 」

- (7) 既存の団体ではなく、やりたい人・やる気のある人が集まった組織や団体はありますか？
- 「 ある / ない 」 → ある場合は次へ。

- ・まちづくり推進委員会に位置づいていますか？ 「 はい / いいえ / 不明 」
- ・その団体や組織は、まちづくりの補助金を活用していますか？ 「 はい / いいえ / 不明 」
- ・他の団体や他学区との連携はありますか？ 「 はい / いいえ / 不明 」

- (8) 企業、大学などと連携した取組はありますか？ 「 ある / ない 」
- ある場合は、具体を教えてください。

- (9) 地域住民が地域活動を行う上で、負担に感じていることなどの声を聞いたことがありますか？
- 「 ある / ない 」 → ある場合は具体を教えてください。

- (10) 地域活動を行う上で、工夫していることはありますか？ 「 ある / ない 」
- ある場合は具体を教えてください。

4. 行政の支援体制

(11) この地域に必要なと思う支援は何ですか？

5. 長期的な地域・組織体制

(12) 5～10年後の地域や組織体制に不安を感じますか？ 「 感じる / 感じない 」

【個別評価に関する項目】

6. まちづくりミーティング

(実施済み学区)

(13) 実施に至った経緯を教えてください。

→実施して良かった点や悪かった点（苦勞した点）はありますか？

→実施後に変化がありましたか？ 「 あった / なかった 」

→あった場合は具体を、なかった場合はその理由を教えてください。

(未実施学区)

(14) 幅広い世代が参加する話し合いの場がありますか？ 「 ある / ない 」

→ある場合は具体を教えてください

7. 地域活動のデジタル化

(15) 地域活動で、デジタル化の必要性を感じていますか？（電子回覧板やWeb会議など）

→地域活動でデジタル技術を活用していることがあれば教えてください。また、活用して良かったことや苦勞した点などあれば教えてください。

→行政からデジタル化に関するどんな支援があれば良いと思いますか？

8. 依頼事項の見直し

(16) 行政からの依頼（委員の推薦など）について、負担は減ったと感じますか？

「 はい / いいえ / 不明 」

(17) 行政からの回覧物は減ったと感じますか？ 「 はい / いいえ / 不明 」

(18) 行政からの依頼について、見直してほしいことはありますか？

9. 地域まちづくり補助金

(19) 補助金の活用について、教えてください。

→「現行のマニュアルどおりの活用でよい / 状況に応じて見直してほしい 」

→その理由を教えてください。

(20) 主にどんな事業に活用していますか？

10. まちづくりサポートセンター

(21) まちづくりサポートセンターを知っていますか？ 「 はい / いいえ 」

→まちづくりサポートセンターを活用したことがありますか？ 「 はい / いいえ 」

→はいの場合は、具体を教えてください

(22) まちづくりサポートセンターにどんな機能があれば良いと思いますか？